

♪♪♪みんなが児童の歌「楽しいとも」を歌いだしています♪♪♪



心友会の放課後等デイサービスは現在、「ともたかだ」、「ともみやこ」、令和3年度より「ともほんだ」も加わり3つの事業所を展開しております。このたび、元気な児童のみなさんの歌として「楽しいとも」が完成いたしました。この曲は心友会の施設長の武田が掲げた「みんながしいのみ園に行きたくなる」というテーマをコンセプトにしたものです。作詞、作曲は童謡歌手として活躍中の、なげのあやか氏です。子どもたちの成長と明るい未来をイメージし、曲調もアップテンポで何度も聞きたくなる曲に仕上がりました。

心友会ともをご利用のご家庭へはCDをお届けいたしました。いかがでしたでしょうか。喜んで何度も聞いているとのご意見もいただき大変うれしく思います。心友会ともでは現在、市立養護学校や第二養護学校への迎えや、ご自宅までの送迎時の車内等で曲を流して児童の皆様に楽しんでいただいております。今後は療育の場面でも活用したいと考えております。

放課後等デイサービス
ともたかだ



倉元 和司
介護福祉士
保育士



森でどんじゃらほいの願い

学校に行きづらいと感じている子ども、子育てが難しいと悩んでいる大人、社会と繋がるエネルギーが切れてしまった若者、ホームエデュケーションをしている親子、さまざまな方を受け入れていきたい。

社会の縮図のような場において、その場を信頼し、安心し、心が開くのを待って学びを始めてほしい。とはいえ、学びは日々の生活や遊びの中にあり、この場に一步踏み入れた時から子どもたちの学びは始まっている、ということをお大切にします。

親子参加もできるので、様々な経験をしている保護者のみなさんのお話を聞きあい、時には焚火を囲んで座談会のようになることもあります。「みんな違ってみんないい」を認め合いつつ共感する場合は、安心感を育みます。どんじゃらほいで安心し、知ることが楽しいと感じ、誰かとつながりたいと思ったら、新たな場所へとチャレンジする子どもたちや大人の背をそっと押し続けたい。それが、わたしたち森でどんじゃらほいの願いです。

活動内容

ままごと、なわとび、鬼ごっこ、木登り、自然探索、歌、楽器演奏、プレイシアター、読書など、子どもたちは日々工夫して活動し、その内容も豊かになっています。危ないことがあれば、その都度伝えて共有しています。



■プレーパーク型フリースクール
「森でどんじゃらほい」のお知らせ

開催概要

- 会場
千葉県緑区のおゆみの森
京成千葉駅から京成ちはら台線「学園前駅」下車、徒歩5分
- 開催日時
毎週木曜 11時～15時 雨天中止
祭日はお休み
受付後、自由遊び お昼は各自持参
14時半からお片付けタイムになります
※好きな時間に来て、好きな時間にお帰りになれますので、お気軽にいらしてください。
- 参加費
家族1回100円
- 運営スタッフ
隊長・学習支援：古山明男
見守り隊：
社会福祉法人心友会
福祉のまちづくり支援室職員
遊び隊：プレリーダー・
学生ボランティア

- ケガなどについて
森でどんじゃらほいは、プレイパークの理念にのっとり「自らの責任で自由に遊ぶ」ことを大切にしています。遊びの中での小さなケガや傷については応急処置を致しますが、その後の治療や通院はご家庭でお願いいたします。
- 学校での出席扱いについて
学校への出席扱いのご要望には対応をいたしますので、お声をかけて下さい。
- 主催
社会福祉法人心友会・
おゆみの森を育てる会・
教育研究家 古山明男
- 問い合わせ先
社会福祉法人心友会
福祉のまちづくり支援室
(平日午前10時～午後3時)
TEL.043-312-3788
メールでの問い合わせはこちら
donjara@shinyuukai.jp

あゆみ

2016年6月	不登校に関する研究会発足
2017年5月	不登校に関する講演会の開催
2017年7月	不登校児童に関わる大人の育成グループ発足
2018年5月	不登校をテーマとした講座の開催
2018年9月	おゆみの森においてモデル開催 毎月1回
2019年4月	本格開催 毎週木曜日11時～15時
2019年8～9月	どんじゃらほい連続講演会
2021年6月	千葉市子ども未来局にプレイパーク申請
2021年9月	千葉市教育委員会にフリースクールに登録申請中



ふくろう通信



発行／ 社会福祉法人 心友会 しいのみ園グループ 理事長 武田 昇
〒266-0003 千葉県緑区高田町1953番地1 E-Mail info@shinyuukai.jp
TEL.043-291-2941 FAX.043-291-2181 URL https://www.shinyuukai.jp/

法人の基本理念 親亡き後の子供たちのため、国際社会、地域社会で人間らしく、安心・安全・共生できる心豊かな施設づくり。



みなさま、あけましておめでとうございます。昨年は、安全・安心の確保のため法人一丸となり新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んだ一年となりました。「心友会に新型コロナウイルスを持ち込まない」、「コロナウィルスを利用者様・職員がお互いにうつさない」、「クラスターを発生させない」という気持ちで難局を乗り越えることができ、皆様、保護者様ありがとうございました。今年も更なる安全・安心が保てる様、願います。

昨年の夏、桜の移植のためクラウドファンディングでご支援を募り、315名の方々のご寄付により、目標金額2,500,000円に対し3,209,000円もの支援金額が集まりました。移植費用が保全でき、「ふくろうの共生の森」に、樹齢60余年のそめいよしの桜を無事移植することができました。ご協力ありがとうございました。「ふくろうの共生の森」は、入所者のみならず、地域の子どもやお年寄り、障がいをもっている方等が集い、交流できる森になることを目指しています。

新たな場所で様々な人たちと触れ合い、樹齢100年更にその先を目指して「ふくろうの共生の森」に大きな根をおろし、共生社会への架け橋になることを願っています。



理事長 施設長
武田 昇
福祉施設士

One Heart One Team One SHINOMIEN.

心友会は、日本福祉施設士会会員です。「福祉QC」活動を主体に「福祉サービスの質の向上」に取り組んでいます。

「ふくろうの共生の森」に移植されました。

樹齢60年の桜の木が

しいのみ園グループは、今回の移植プロジェクトを地域貢献の一つとして取り組みました。昨年8月31日にスタートしたクラウドファンディングを通じ、地域の皆様をはじめ、多くの方々の協力を賜り大変感謝しております。おかげさまで、移植プロジェクトの目標額に達成することができました。



しいのみ園では、かねてより、施設の周囲を入所者のみなさまが散策できるようにと、「ふくろうの共生の森」を整備してまいりました。「ふくろうの共生の森」では、入所者のみならず、地域の子どもやお年寄り、障がいをお持ちの方等が集い、交流できる共生の森になることを期待しています。

このたび、埼玉県新座市にお住いの木村様*から樹齢60余年の桜の大木を寄贈していただき、移植いたしました。この桜は宅地開発により伐採を余儀なくされたのですが、何とか守りたいという木村ご夫妻の想いと、知的障がいのある方々により良い環境を整えたいという心友会の想いが一致し、移植に至ったものです。

移植作業は大変大掛かりなもので、掘り出しから植え付けまで1週間を要し、クレーン車などの重機を繰り出しての一大作業でした。

根付いて開花するのは早くも2年先の春とのことです。その際には地域のみなさまとお花見ができることを願っています。

理事長 武田 昇



上) 樹齢60年の桜の前で画面左より武田昇理事長、木村様ご夫妻、福谷章子理事

左) 樹齢60年の桜。植え込みだけでも約1週間をかけたプロジェクトとなりました。

*木村様のご紹介。
木村様は、埼玉県新座市の住宅街で『オーガニックmaman』という焼き菓子屋を営んでいます。店舗の敷地内に樹齢約60年の桜の木ソメイヨシノが立っていましたが、都市開発により伐採を余儀なくされました。しかし思い出の多い桜を伐採せず移植先を探しSNSを通じクラウドファンディングによる移植費用を募るプロジェクトを立ち上げました。当法人は、木村さんの強い気持ちに賛同し、移植先として承諾させていただきました。

桜の木の移植について、詳しくは、
下記アドレスからかQRコードからご覧ください。
<https://readyfor.jp/projects/sakura3488>

新人紹介

お題：自分のセールスポイント 自分を動物にたとえると ※写真



亀井 篤之
外国語を学んだり、文化に触れたりするのが好きです。しいのみ園で外国人の皆さんと共に働けてうれしいです。
介護福祉士、英検・中国語2級(こころの誉)



ジャネッサ
私はプレッシャーに強いです。また、柔軟性があり、あらゆる事態を想定して対応するように心掛けています。
特定技能実務者研修(しいのみ園入所)



ジャン
私はコンピューターが得意です。また、強い忍耐力がありますので、仕事に活かしていけたらと思っています。
EPA介護福祉士候補生(しいのみ園入所)



関
職業柄、私のセールスポイントは料理が得意な事です。特に餃子とクレープ作りをします。家族や友人が褒めてくれます。
栄養士(しいのみ園あい)



林 亜由美
明るく素直なところです。自分の誤りを素直に認めて、自分も周りの人も笑顔でいれるよう心掛けています。
ヘルパー2級、秘書検定2級(こころの都)



メリー
笑顔は人生の勇気そして希望を象徴しています。出会う全ての人に希望のしるしとして笑顔を残したいです。
EPA介護福祉士(しいのみ園入所)

進む国際交流

福祉人材の育成・確保・定着のために



介護分野における外国人材の受け入れ方法には、EPA(経済連携協定)、技能実習、在留資格「介護」と2019(平成31年)年4月に施行された新たな在留資格である「特定技能」があります。

そうしたなか、しいのみ園グループでは、国境を超えた人的・文化的交流を目的とした国際貢献事業と位置付けて2015(平成27年)年よりEPAを中心とした介護福祉士候補生の受け入れを継続して行なっています。そして候補生のサポート体制充実を図りながら確実に結果を出してきています。

日本で生活する外国人は、今後も増加すると考えられます。しいのみ園グループは、世界の仲間と手をつなぎ、障がいをもった人々を支えるため、福祉人材の育成・確保・定着の一つの施策として外国人介護福祉士候補生学習計画を推進し続け、「地域共生社会」の実現を目指します。



新型コロナウイルスに感染症対策について

利用者・職員にコロナワクチン接種を実施しました。ワクチン接種をしたからもうコロナにはかからないというのは間違いです。ブレークスルー感染の危険性もあります。ブレークスルー感染とは「2回目の新型コロナワクチン接種を受けてから2週間後以降に、新型コロナウイルスに感染すること」を指します。もともとブレークスルーとは「通り抜ける」という意味です。今後も引き続き、手洗いやうがい、マスク着用等の感染予防対策が必要です。



メンタルヘルス・ストレスチェックを実施しました

メンタルヘルスの研修会を実施して、職員にメンタルヘルスケアについて正しい認識を持ってもらえるように今回は保健師により「うつ病を疑うサインについて・自分が気付く変化と周囲が気付く変化」の勉強会を実施しました。受講後に「自分の心の状況がうつ状態では?」とか、「同僚が悩んでいるようなので相談してあげて欲しい」等の声が聞かれましたので個別相談を行いました。また、労働安全衛生法に基づいてストレスチェックも実施しました。職員の73.8%が受検し、結果、ストレスリスク度は国の平均を下回っていました。(全国平均を100とした場合94)

高ストレス者と判断された職員に対しては今後、産業医・保健師による面接指導を実施する予定です。面接の結果を検討し、職場環境の改善につなげていき、職員が働きやすい職場作りを目指しています。

職員健康教育研修を実施しています



薬に関する知識研修の様子

保健師による職員の健康教育研修会を3回実施しました。保護者会からの依頼を受け ①誤薬の防止について ②薬に関する知識 ③メンタルヘルスケア・ストレスチェック についての研修会を行いました。また、その際の意見を参考に医務看護師が「誤薬事故が発生した際のマニュアル」を作成しました。

利用者・職員健康診断について

2020年度から公益財団法人ちば県民保健予防財団と提携し、年2回(1回目は入所利用者・夜勤従事者、2回目は全利用者・全職員)健診を実施し、以前は健康診断結果を紙媒体にて受け取り・配布のみだったものを、2020年度からは電子記録媒体にて提供していただくことにより、健康管理部にて確認・ケースカンファレンスを経年的に実施できるようになりました。その結果を基に、健康管理部の保健師・管理栄養士・看護師により個々の利用者に合った健康管理・栄養管理を実施できるようになりました。また、ケースカンファレンスの結果を基に栄養加算を行っています。毎月の体重変化や、摂食状況の実際を各事業所にて確認し、大きな変化が確認できた際には支援側と検討し、その利用者に合った食事提供を行っています。



十枝 英理 保健師



夏祭りについて



2021年8月13日、14日、15日と3日間に分かれ、しいのみ園夏祭りを開催いたしました。コロナウイルス感染防止の観点から、しいのみ園こころ、こころの都は各事業所での開催となりました。メニューは屋台をイメージし、加藤商店様に協力依頼をし、1パックずつ、たこ焼きやポテト、唐揚げ、ハンバーガー等を個包装して頂き、好きな物を利用者様自身で選択し袋に詰め、少しでも夏祭りっぽい雰囲気味わえるようにという思いから実施いたしました。

コロナ禍の為、以前とは全く異なる形で開催をしましたが、利用者様は皆さん満足そうな表情が伺えました。

来年度はコロナウイルスも落ち着いて少しでも以前同様大規模で開催できることを心より祈っております。

ご協力いただいた地域の方達にも感謝申し上げます。ありがとうございました。



伊藤 孝史 介護福祉士 保育士



季節のイベントを大切にしています



ともたかでは季節のイベントを積極的に取り入れ、子ども達に様々な体験をして頂けるように企画しています。当日は子どもたちもイベントを楽しみに登園される様子があり、職員も一緒に全力で楽しんでいます。夏休みに行った『縁日』では、ボーリングやもぐらたたきや的あて、水ヨーヨー等を準備し、どんな特性のお子様でも楽しめるような内容を考えました。保護者の皆様からは今年度も外部のお祭りへの参加が難しかった為、少しでも夏気分が味わうことが出来てよかった、などの好評をいただき、職員もやりがいを感じました。今後も日々の活動やイベントを通して、子ども達の成長をサポートできるような支援を心がけていきたいです。



伊藤 玲奈 (ともたかだ) 介護福祉士 保育士





防災訓練の実施



水消火器を使った消火訓練



児童一人ひとりに防災頭巾を着用してもらいました



利用者様は、職員の誘導で安全に避難できていました。



「地震だ!」の職員の大きな声で、利用者様はテーブルの下に入ることができていました。

放課後等デイサービス事業所 ともほんだ事業所



毎年9月1日が防災の日です。1960年に制定されました。1923年に大被害をもたらした『関東大震災』に由来しています。

ともほんだでも9月24日(金)に防災訓練を実施しました。地震による火災を想定した避難・消火・通報の総合訓練です。職員一人一人に役割分担をすることで無駄のない避難ができました。児童の皆さんには、防災頭巾を着用してもらいましたが、特に拒否する児童もなく訓練終了まで着用することができていました。

避難開始時に、全員が事業所入口に集まってしまったことが反省点かもしれない。誘導に際しても、職員で役割分担を決めておけばより安全な避難誘導になったようにも思います。災害はいつ起こるか分かりません。そのため、万が一に備えて防災対策をしておかなければなりません。今後も毎月の防災訓練を継続しながら今回の反省を活かし災害に備える必要があると職員皆で確認しました。



宇留間 介護福祉士
知的障害福祉士

生活介護事業所 しいのみ園こころの誉



今回は地震を想定した訓練で「地震だ!」の職員の大きな声により始まりました。利用者様は訓練に慣れた様子で、すぐにテーブルの下に隠れ頭を守っていました。初めて参加する利用者様と職員がおり、前回より避難に時間を要してしまい、日々の積み重ねが大事だと実感しました。

訓練後は室内に戻り、千葉県防災政策課の動画鑑賞をしました。千葉県で起きた過去の災害などの動画で、動画はアニメで作られていた為、わかりやすく利用者様と一緒に鑑賞する事ができました。次回の防災訓練は、今回の反省点を活かして取り組みたいと思います。



長谷川 由佳 介護福祉士
知的障害者援助専門員

現在、サービスの質の向上を目的として
株式会社日本ビジネスシステム 千葉県福祉サービス第三者評価の審査を進めています。



IT研修

10月26日、絆棟会議室にてIT研修を実施しました。この研修は、QCグループ「消しゴム」で取り組んでいる「印刷物を減らす」に関連したものです。法人では、全体会議、委員会、事業所会議、活動班会議等、数を合わせると約30もの会議が毎月行われています。印刷枚数も、毎月1000枚以上使われています。研修の狙いは、法人には様々なIT機器を用意して

れています。ただ使い方を知っている職員は限られています。せっかくある機器を使わない手はありません。講師として中根管理者が分かりやすく、時には笑いを織り交ぜながらご教授いただきました。

研修をきっかけに、職員一人ひとりがIT知識を深め、資源の無駄遣いを減らすことで環境保護を法人から発信していきたいと思ひます。



渋谷 信秀 介護福祉士
介護支援専門員

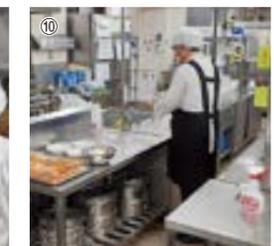


事業所紹介



就労継続支援B型事業所 しいのみ園あい

①②リネン、③④⑤農作業、⑥⑦⑧製菓、⑨⑩給食



就労継続支援B型の福祉サービスとは、障がいをお持ちで、一般企業で働くことが困難な方へ、適切なサポートを行いながら軽作業を中心とした働く場を提供するというものです。

しいのみ園あいでは、リネン、農作業、製菓、給食の4つの作業種を提供しており、それぞれの活動場所で作業に取り組んでいます。利用者様一人ひとりが仕事を通して、自分自身の課題と向き合いながら、目標を達成する喜びを学び、仕事に対してやりがいと誇りが持てるように支援しています。

就労事業所 あいサービス管理責任者の倉元路華さんに伺いました。



倉元 路華 介護福祉士
知的障害者援助専門員

利用者様の活動への取り組みなど

個々の特性を活かした活動種が選択できるように環境設定を行い、その人が自信をもって行える活動を提供しています。自信をもって仕事を行うことで、新たな作業種にも挑戦する意欲が生まれ、本人の成長にも繋がっています。

今年の夏から新たな作業種に加わった給食の作業について

今年の8月より、しいのみ園の利用者様を中心に、就労継続支援B型事業所の新たな作業種として、昼食の調理・提供を開始しました。以前は、給食委託業者の方に作っていただいた食事を食べていただけでしたが、職員が調理した食事を利用者様が自分たちで盛り付けや配膳・片付けまでを経験することによって、今まで以上に食事のありがたみを感じられる機会となったように思います。



今後の取り組みなどについて

作業種を拡大していき、利用者様が作業種を自己選択できるようにしていきます。高齢の方や身体機能にも不安がある方も仕事ができるように、リネン作業の拡大を目指しています。

